

早朝、錨をあげてミロス島へ。風は弱かったのでエンジンで。ここは、ミロのヴィーナスが発見された島で、観光のメッカなので大型のクルーザが並んでいる。明日から海が荒れるようなので、3日ほどステイする予定。

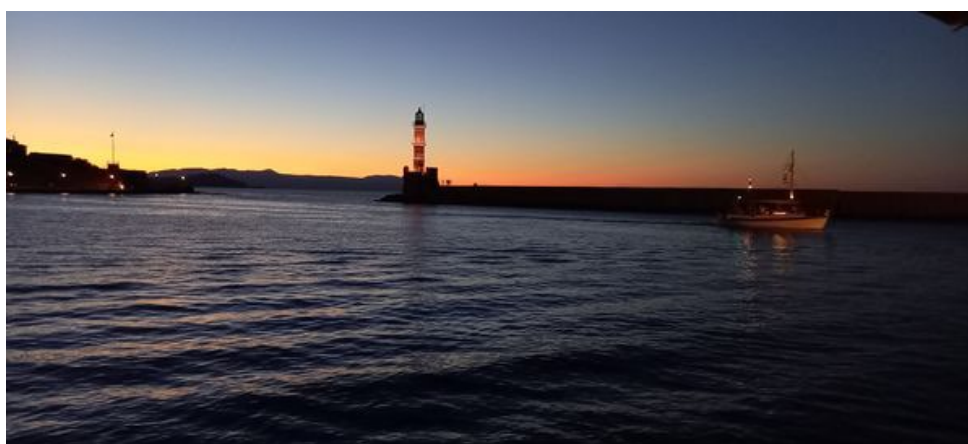
いよいよレンタカーでミロス島を観光。市街地を走っても、白い家の連続。ミロのヴィーナスが掘り出された場所、古代劇場の後など当時の文化の高さがしのばれる。海岸沿いにならぶ色とりどりの漁村、そして綺麗な海を数多く訪れたが、月面のような岩肌と青い海との対比が素晴らしいサラニコスは秀逸。昼食したレストランの隣には寿司の店が、帰りにワインを仕入れたワイナリーも、洞窟を活用して雰囲気が良い。



自然は、ままにならぬもの、強風の予想が続き、結局、ミロス島に5日ステイすることに。高齢の我々は、安全第一を優先しているので仕方がない。午前5時に起床係の号令のもと出港。予定よりステイ時間が長かったので、サントリーニ島をパスして、最終目的地のクレタ島へ、12時間のロングセーリング。交代とはいえ疲れた。



我々のクルーズも最終コーナーのクレタ島に。ここは大きな島なので、まずはハニアに入港。夕食を兼ねて港を散策。今まで訪れた白と青の世界と違い、ヴェネツィア時代の面影を色濃く残す町並みが素晴らしい。象徴の灯台が見事にライトアップされ、カップルをロマンチックな世界に。





今後の予定を考え、明日は、強風が予想されるので早朝、レシムノ(クレタ島の間)に向け出航。良い風にも迎えられ32マイルを機帆走し、城壁が残る湾に到着。夕方だったしハーバーから市街地が離れているので、夕食は同期の料理名人が作ってくれた温かい料理を船内で。

予想どおり台風なみの風が吹き荒れ、ステイとなり。昼食をかねて市街観光。昼食レストランのオーナーはフレンドリーで笑わせてくれた。童心に戻り「チュウチュウポップ」に乗り市内を周回、狭い道もわけなく通過、ハーバーで下車。大きな観光船が着岸作業中。夕方は、ただ広い海辺を散策、秋の雰囲気。夕食は、冷蔵庫の在庫処理を兼ねた盛りだくさんのタイカレーを賞味。明日は、航行するのが最終日になってしまう。





早いもので、我々同期クルーズも最終航行に。早朝に出て、日の出を拝み、初めてゼネカーを綺麗にあげ、いい風のもと機帆走してクレタ島アギオス・ニコラウスに無事到着。ゆとりをもって3日間滞在して帰途につくことに。本格的、観光は明日からにして、夕食を兼ねて市街を散策。かなり、おしゃれな店も多く、都会を感じさせる。

クレタ島の観光をレンタカーで。艇長知り合いの、イタリア人で在住のクリスティナーが、昔使われていた風車、教会、絶景スポットをフレンドリーな彼女が案内。



見ずにしてエーゲ海を語るなという「クノックス宮殿跡」「考古学博物館」。停泊地ニコラスから、2時間ほどレンタカーでイラクリオンに。「クノックス宮殿跡」は観光のメッカなので、多くの観光バスと入口には長蛇の列が。



「考古学博物館」はスケールの大きさと展示物に、ギリシャが国として歴史の重みを、大切にしている姿を実感。

「考古学博物館」は、入り口は地味ですが、スケールの大きさと展示物に、ギリシャが国として歴史の重みを、大切にしている姿を実感。



ディナーは最終日なので、舟で現地の食材を中心に、手のこんだ料理を作っていたき、乾杯。



翌日は、帰宅の準備もあり、昼食を兼ねて先日のクリスティナさんの案内で、観光客のいない鄙びた村を訪れ、地元のお茶を楽しみ、海沿いのレストランで昼食。この店のマダム



ムの素敵な笑顔に癒された。



夕方は苦労しながらパッキング。夜は、昼食を食べすぎたので、懐かしいお茶漬け。ワインを飲みながら、過ごした30日間の思い出を語り合った。

日本はコロナで騒いでいるときでしたが、ギリシャではマスクなどしている人は皆無。日本入国は結構たいへんでしたが、エーゲ海の地図と重ねて30日間を振り返ると、50年以上たった同期の連中と、思いで深い旅が出来たことが感慨深い。

なお、航海中の良い動画を多くとりましたが、紙面では披露できないので、私のFBをのぞいてください。